

ようこそ社会科学教室へ

2023

東京学芸大学

オープンキャンパス

A類・B類 社会

社会科学教室の紹介

大まかな流れ

1. 社会科学教室全体の概要
2. 社会科学教室の7つの分野紹介

* 所属教員と専攻分野については、本学のWebページをご覧ください。

<https://www.u-gakugei.ac.jp/03gakubu/h27/index.html>

社会科学教室全体の概要

1. 社会科学教室で学ぶ学生
2. 課程・選修の目的(A社)
3. 課程・選修の目的(B社)
4. カリキュラムの仕組み
5. A社とB社の違い
6. 社会科学教室の科目
 - (1) 教科・教職に関する科目
 - (2) 専攻に関する科目(概論)
 - (3) 専攻に関する科目(選択)

7. 七つの分野での学び

- (1) 1年生
- (2) 2年生
- (3) 3年生
- (4) 4年生

* 各学年の主なイベントと履修する科目の特徴を紹介します。

8. 広がる学びの選択肢

社会科教室で学ぶ学生

※1学年あたりの人数

◆ 初等教育専攻(A類) 社会コース

略称:A社 定員 70 名 前期50 後期20

◆ 中等教育専攻(B類) 社会コース

略称:B社 定員 25 名 前期20 後期5

専攻・コースの目的(A社)

- ◆ A類(関係部分のみ): 小学校の全教科等に関する幅広い知識・技能・指導力とともに、特定の教科に関する専門性を兼ね備えた小学校教員の養成
- ◆ 社会コース: 社会科の内容と実践に関する専門性を持つ小学校教員の養成

A類社会コース

- ◆ 小学校教諭一種免許状の取得が卒業要件
- ◆ 小学校の全教科に対応しつつ、社会科に重点を置いて学ぶ選修
- ◆ 中学校(社会)、高等学校(地理歴史や公民)の免許も、無理なく取得できる
- ◆ 司書教諭等の資格を取得する学生もいる

専攻・コースの目的(B社)

- ◆ B類: 中学校・高等学校の教科に関する高度な専門性と優れた実践力を兼ね備えた教員の養成
- ◆ 社会コース: 社会・地理歴史・公民の内容と実践に関する高度な専門性を持つ中学校・高等学校教員の養成

B類社会コース

- ◆ **中学校(社会)および高等学校(地理歴史か、または公民)の一種免許状の取得が卒業要件**
- ◆ **高等学校教員免許は、地理歴史と公民の両方を取得することもできる**
- ◆ **小学校教員免許も取得できる (ただし要取得単位が増える)**

カリキュラムの仕組み

専攻科目

各分野の教育内容科目、教科の指導法(小学校全科、中等社会科、中等地歴科、中等公民科)、卒業研究など

教育基礎科目

教職入門、教育の基礎理論(教育組織論や教育心理学など)、生徒指導、道徳教育、教育相談、教育実習など

教養科目

- ①総合学芸領域(日本国憲法、AI時代の情報、人権教育)
- ②健康スポーツ領域
- ③語学領域

教育創生科目(令和5年度から)

授業観察演習、チーム学校、ファシリテーション技能など

A社とB社の違い(卒業要件単位数)

	A社	B社	
専攻科目	5 5	5 8	→A社は社会科以外の教科の教育法 1 8 単位を含む
教育基礎科目	2 9	2 9	
教養科目	2 2	2 2	→A社は社会科以外の内容 5 単位を含む
教育創生科目	1 1	1 1	
自由選択	9	8	
合計	1 2 6	1 2 8	

※実際には卒業までにこれ以上の単位をとっている

社会科教室の科目

教科専門性

- ・社会科の教科目標の理解
- ・社会科の指導方法の習得
- ・社会科で扱う内容の理解
- ・適切な研究法の習得
- ・自らの社会認識を養う

学問的専門性

社会科教育学
歴史学
地理学
哲学
法学・政治学
経済学
社会学

7つの専門分野

専攻科目の例1

: 各教科の教育法

- a 小学校各教科指導法 **10教科20単位必修**
- ・初等社会科教育法(2年次)A社のみ
- b 中・高等学校各教科指導法 **8単位必修**
- 中等社会科・地理歴史科教育法I・II 各2単位
／中等社会科・公民科教育法I・II 各2単位
- **教科専門性を育成**

専攻科目の例2 (概論)

	A社	B社	免許法上の科目		
入門セミナー	必修(S)	必修(S)			
社会科概論A	必修(S)	自由選択			
地理学概論	必修(S)	必修(S)	地理学・人文地理	中免	地歴
日本史概論	必修(S)	必修(S)	日本史	中免	地歴
法学政治学概論	必修(S)	必修(S)	法律学・政治学	中免	公民
東洋史概論	SA	必修(S)	外国史	中免	地歴
西洋史概論					
哲学・倫理学概論					
社会学概論					
経済学概論					
自然環境	SA	必修(S)	地理学・自然地理	中免	地歴
地誌学概論	SA	必修(S)	地理学・地誌	中免	地歴
哲学と宗教	SA	必修(S)	哲学・宗教学	中免	公民
社会科概論B	自由選択	必修(S)			

この他に、社会科教室を構成する7分野の授業が多数開設されています！

→教科の内容を深く理解するとともに学問的な専門性を高める

7つの専門分野での学び(1)

社会科学教室 教員28名

- ◆ 歴史学
- ◆ 地理学
- ◆ 哲学
- ◆ 法学・政治学
- ◆ 経済学
- ◆ 社会学
- ◆ 社会科学教育学

7つの分野を担当

所属分野を希望
最終的にその分野で
卒業研究

A類社会 70名

B類社会 25名

所属分野に応じて、
取得免許に応じて、
興味・関心に応じて履修

7つの専門分野での学び(2)

- ◆ 2年次から一つの分野を選んで所属
3年間を通じて学問を系統的に学ぶ
→ 卒業研究(卒論)を書く!
- ◆ 少人数のゼミ: cf.カリキュラム外の自主ゼミ!
仲間とともに学ぶ力を身につける
教員との交流
→ 創造的な学びの場を知る教員に

4年間の流れ:1年生 (2022年度までの例)

- ◆ 新入生研修会・各種オリエンテーション
- ◆ 全学共通科目・必修科目を中心に履修
- ◆ 社会科教室7分野の概論をまんべんなく学ぶ
- ◆ 教職入門(学校観察)
- ◆ 附属特別支援学校での介護体験
- ◆ 2年次以降の所属分野の決定(12月)

4年間の流れ:2年生 (2022年度までの例)

- ◆ 所属分野の専攻科目の履修が本格化
- ◆ 教科指導法の授業が始まる
- ◆ 社会福祉施設での介護体験
- ◆ 学校や企業でのインターンシップ(選択)

7つの分野に分かれ、それぞれの分野の方針に従って指導教員が決められる。

4年間の流れ：3年生 (2022年までの例)

- ◆ 実習目前で教科指導法の習得に力が入る
- ◆ 所属分野での学びを深める
- ◆ 附属小・中学校で初めての教育実習(9月)
- ◆ 教員採用試験、就職活動、進学などの準備が本格化

4年間の流れ:4年生

(2022年までの例)

- ◆ 卒業研究(各所属分野・年間を通して)
 - ◆ 6月頃 公立学校での教育実習(3週間:選択)
 - ◆ 7月～ 教員採用試験
 - ◆ 9月～附属学校での副免許の実習(選択)
 - ◆ 10月～教職実践演習(必修)
 - ◆ 3月祝卒業！ 学士・教員免許状取得
- それぞれの
進路へ

専攻科目(学問)
の集大成

教職科目
の集大成

広がる学びの選択肢

- ◆ OB主催の教員採用対策講座
- ◆ 教職大学院
 - 学部のうちから大学院までを見通して学びを深めるコース

社会科学教室の7分野の紹介

1. 地理学分野
2. 歴史学分野
3. 哲学分野
4. 法学政治学
分野
5. 経済学分野
6. 社会学分野
7. 社会科学教育学
分野

*各分野の卒業研究タイトルで学問内容のイメージをつかんでください。

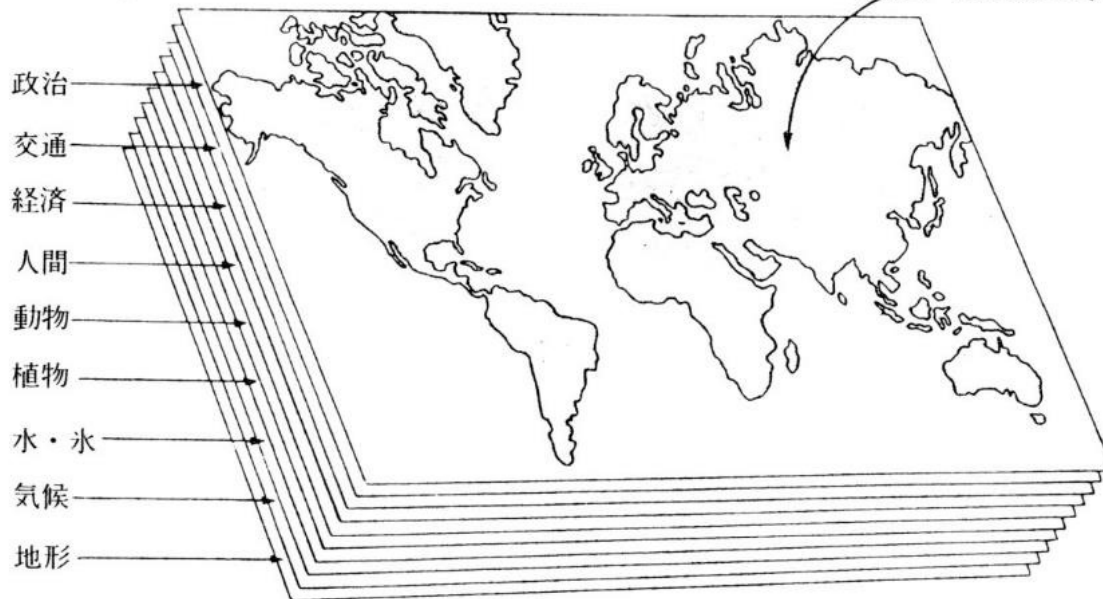
地理学分野

東京学芸大学・地理学分野

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~chiriken/index.html>

系統地理学

地誌学 (地域地理学)



(中村和郎・手塚 章・石井英也 (1991) : 『地域と景観』古今書院, p. 117より引用)

地理学は、
特定の現象を空間的視点から理解する系統地理的な見方と、
諸要素の関係性から地域的特徴を理解する地誌学的な見方から、
現代世界を理解する学問です。

そのため、地理学の対象は、地形・気候といった自然的な要素から、
経済・文化といった人文社会的な要素まで、多岐にわたります。

地理学分野の特徴



オシャレな街は
どうしてできたのかな？

地形の成り立ちを知ろう



- 東京学芸大学の地理学分野は、特にフィールドワークを重視し、現場での観察・計測・ヒアリング等の調査によって、オリジナルデータを収集します。
- 3年次の「臨地研究演習1・2」では、学生と教員全員で地域を訪れ、調査法や研究法を学び、進級論文としてまとめます。
- 過去の卒業論文には、
「滝壺深さの規定要因に関する研究」
「千葉県市川市における「市川のなし」地域ブランド事業の現状と課題」
「千葉市稲毛せんげん通り商店街の特徴と商業機能維持に向けての取り組み」などがあります。

歴史学分野の特徴

【今の自分たちを説明するシナリオ】

過去を知ることは、今の自分たちを説明し、未来につなげるために必要なことです。事実を知り、それをいかに意味づけるか。シナリオは1つではありません。

【2つの意外性】

過去は「今」と比べて「意外と同じ」ときもあれば、「意外と違う」ときもあります。そんな意外性や驚きに出会って、児童や生徒にそれを伝えられる教員になってください。

歴史学分野：卒業論文あれこれ

- ・律令国家の排外意識－エミシ政策との関連から－
- ・『今昔物語集』における「恐怖」という心性
- ・戦国大名北条氏領国における高利貸の成長
- ・中世紀伊国における在地領主に関する－考察
- ・共和政末期におけるカエサルの独裁政治
- ・前漢武帝期の商人について
- ・中世ヨーロッパ世界における宗教的寛容
- ・近世における南部と津軽の地域対立
- ・近世阿武隈川水運における城米輸送－藩権力と江戸とのつながり－
- ・近代日本における公民教育の理念
- ・地方改良運動にみる地域と軍隊
- ・国民政府による政治的統合と国民代表会議
- ・移民国家フランスの社会的統合に関する考察

哲学分野の特徴（何を学ぶのか）

・ 哲学は実学ではない虚学として軽視されることがあります。日本の大学でもここ数十年間、虚学は大学には必要ないということで、我々の日々の生活に直接役立つ実践的な学問が偏重されてきました。しかし、実践はすべて、方針や理念や理論などといった、ものの考え方を前提としています。考えのない実践は時には大きな問題を引き起こします。日々進展する科学技術を利用して、何も考えないまま経済性・利便性をひたすら追求することにはもう限界がきているように思います。

・ 哲学は実践の基礎となる、ものの考え方を追求する学問です。そもそも虚学と実学の区別とは何でしょうか。もし、役に立つ、役に立たない、という区別であるなら、そもそも「役に立つ」ということはどういうことでしょうか。ある意味では哲学こそ役に立つ実学と言えるのではないかと思います。

この「そもそも…とは何か」という問いをたて、それについて考察していくのが哲学です。

哲学分野の卒業論文題目(抜粋)

- ・「ロボットに心はあるのか」
- ・「ヤスパースの実存的交わりについて」
- ・「武道に基づいた「道」の一考察」
- ・「なぜ道徳的であるべきかという問いに関する考察」
- ・「死への向き合い方～レヴィナスによるイリヤと死からの考察～」
- ・「懐疑による真理の探究～デカルト『方法序説』による考察の道筋～」
- ・「『星の王子さま』を読む～心で見るとは～」
- ・「『機動戦士ガンダム』における人間の成長と他者との関係」
- ・「アウグスティヌス『告白』における自己認識・他者認識とその変化」
- ・「現代日本における元号制度の存在意義」
- ・「能の舞台空間における即興性～世阿弥の精神と生涯を通して～」
- ・「人間存在の構造～和辻倫理学再考～」
- ・「アトマンの存在論証および非存在論証についての考察」
- ・「仏教における時間—三世実有論とそれに対する批判—」
- ・「『阿毘達磨俱舍論』の言語観—名前・章句・音素は実在するか—」
- ・「孔子が求め続けた「道」とはなにか」
- ・「「いき」の「構造」再考」
- ・「＜わたし＞の固有性の有無」

法学政治学分野の特徴

【法学政治学分野が提供できること】

- ・憲法：国家から侵害されることのない「人権」と統治機構の仕組み
- ・民法：対等な個人間の利益調整：「契約」「所有権」「家族」など
- ・刑法：安全な社会とは？どうやって？：刑罰と刑事政策、修復的司法
- ・政治学：「みんなで決める」のやりかた：政策決定の制度とプロセス

【なぜ学校教員に法学・政治学の素養が必要か？】

- ・小学校・中学校・高校の連続性
 - 法的・政治的な見方を習得する基礎づくり
- ・こどもの成長、「クラス作り」の一助
 - 一人で考え、みんなと話し合い、必要に応じて自分の意見を調整する

法学政治学分野の卒業論文題目（抜粋）

- ・「子どもの権利とは何か——権利の再構築と実現のために——」
- ・「主権者教育を考える」
- ・「日本プロ野球のルールにおける課題点とその改善点について」
- ・「9・11同時多発テロとISILの出現から考えるテロの変容と安全保障上の課題」
- ・「「集団イデオロギーによる暴力行為の正当化について 赤軍とオウム真理教を事例として」
- ・「裁判員制度の未来と国民の司法参加」
- ・「学校事故における刑事責任の問題について」
- ・「共謀罪の検討——歴史的観点を参照しつつ」
- ・「少年法改正の動向と課題」
- ・「外国人の教員任用について」
- ・「クール・ジャパン政策にみる新たな日本的ポップの輸出 日本のソフト・パワー」

経済学分野

- ◆ 経済学は、人・もの・金の流れを分析の対象として、経済現象を理論的・実証的に分析する学問です。
- ◆ 経済学の3つの柱:ミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学
 - ミクロ経済学 個々の経済主体, 家計や企業の行動を分析する。
 - マクロ経済学 GDPなどの集計値から経済活動を評価する。
 - 計量経済学 理論的に得られた知見を実際のデータを用いて検証して, 政策に応用する。
- ◆ 東京学芸大学経済学分野では、変化し続ける経済現象を的確に捉え分析できる人材の教育を目指しています。

卒業論文題目（抜粋）

- ◆ 「教育の質を向上させる財政政策
—教育国債 による公費投入の拡大と教育バウチャー
制度—」
- ◆ 「フランスの少子化対策から考える日本の少子化」
- ◆ 「長野県伊那市を対象とした人口減少の要因分析」
- ◆ 「制度的な面から見た教育現場への変形労働時間制
導入の是非の検討
- ◆ 「年金と生活保護の現状と今後課題について—考察」

社会学ってなんだろう？

- ◆ 社会関係の総体として社会をとらえる学問
- ◆ 社会関係？たとえば？
 - 身近な関係の諸問題：
児童虐待、いじめ、「草食化」、ほか
 - 中くらいの関係の諸問題：
地域コミュニティの変容、企業組織の問題、ほか
 - 大きな関係の諸問題：
「無縁社会」、少子高齢化、階層格差、貧困、ほか
- ◆ 高校の教科内容でいうと・・・
 - 現代社会・公共の一部
 - 倫理の一部

こんな卒論を書いています

- ◆ 新学習指導要領における「資質・能力」とは何か
- ◆ 運動部活動において体罰が起こる原因について —— 体罰受容の観点から考える ——
- ◆ 新自由主義化理論と教育改革 —— イギリス教育改革で何が行われたのか
- ◆ 飛んで火に入る大学生 —— 東京学芸大学の学生に対する調査にみる大学生とネット炎上の関わり
- ◆ お金か夢か？ —— なぜ人は働こうとするのか
- ◆ 日本人大学生の対外国人意識に関する研究 —— 東京学芸大学学生の生徒を事例にして ——
- ◆ キラキラな少女マンガとアツイ少年マンガ —— マンガ読者はどのように少年マンガと少女マンガを判別しているのか——
- ◆ 女性ティーンズ誌から探る女子中高生の友人関係の変化
- ◆ 地域劇場における演劇ワークショップの参加者に与える影響
- ◆ スポーツによる地域活性化 —— 青森県弘前市を事例に
- ◆ 教員志望の学生が地域移動によって受ける影響に関する研究
- ◆ 大学運動部に所属するマネージャーのモチベーションに関する研究
- ◆ LINEは「ときめきの装置」たりえるか —— 若者の親密性とLINEの親和性 ——
- ◆ 「スクールカースト」の利点 —— 「優しい関係」との優位性 ——
- ◆ イベント化する伝統芸能から探る地域活性化の可能性に関する研究 —— ながの獅子舞フェスティバルを事例として——
- ◆ 新聞記事から読み解くホームレス支援者の自立観
- ◆ 問題なのは承認だ: アクセル・ホネットの承認論研究

社会科教育学分野の特徴

【社会科という教科目で何ができるか】

学校や教科・科目という制度を前提にして、その枠のなかで「良い授業」をめざすのではなく、現在と未来に向けて必要とされる社会科教育の創造と形成をめざす学問分野です。

【研究方法】

過去および外国に存在したカリキュラム、授業理論、授業実践の国際比較研究や歴史研究、実際の授業のフィールドワークやインタビュー調査等による授業研究、それらに基づくカリキュラム・授業理論・授業案の開発研究などがあります。

◆ 次の動画もご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=I5ei9Puqt7k>

社会科学教育学分野：過去の卒業論文のテーマ例

- ・イスラームに対する偏見の解消を目指す世界史授業開発
— 「逆向き設計」論を活用したカリキュラム編成 —
- ・セクシャルマイノリティの人権を論争問題として考える社会科学授業開発
- ・自民族中心主義の克服に向けた社会科学教材の提案
- ・国際的な視点から構成する農産物輸入問題の学習
- ・批判的思考力の育成を目指す中学校社会科学公民的分野の授業開発
— 「原発安全神話」の問題を通して —
- ・多面的な価値判断力育成を目指す社会科学授業の提案
— 世界遺産の価値を自明視せず遺産登録の意義を問うことを題材として —
- ・小学校教師の授業における信条形成と社会科学授業研究会の意味に関する研究
- ・子どもの自尊感情を高める社会科学授業
- ・置き去りを生まない主権者を育てる社会科学授業単元開発

閲覧ありがとうございました

東京学芸大学
A類・B類 社会科学教室